

点検・評価シートにかかる意見への整理等について

1 意見総数 34意見

【対応区分の種類】

(1) 「委員の意見」欄掲載	総括シートの「委員の意見」欄に掲載するとともに、次年度以降、取組や検討の進捗状況を確認するもの
(2) 既存の取組の中で検討等を行う	すでに総括シートに記載済みの取組等の中で、委員意見を考慮して、今後の検討や取組を進めるもの
(3) すでに取組済み	すでに取組等を実施しているもの
(4) その他	① 委員意見をもとに総括シートの本文を修正したもの（修正箇所は、総括シートの下線部分） ② 委員からの資料要求等があったもの ③ その他、上記以外の内容のもの

【区分別 内訳】

区分	件数
(1)「委員の意見」欄掲載	6
(2)既存の取組の中で検討等を行う	7
(3)すでに取組済み	2
(4)その他	19
合計	34

2 意見等一覧

No.	委員名	分類	該当箇所		委員意見等	修正内容等	区分
			頁	展開方向			
1	伊藤委員	郵送	P.10	福祉学習の推進	取組・方向性② 親子でボランティア活動に参画することは大切であり、例えばLGBTのバリアフリーなどといった様々な分野に対しても、理解を促す取組を進めていくことが必要ではないか。	●既存の取組の中で検討等を行う。 親子ボランティア体験学習の中で、今後、様々な分野での福祉学習を進めます。	(2)既存の取組の中で検討等を行う
2	寺岡委員	郵送	P.10	福祉学習の推進	取組・方向性② 定員や実際の申込者数など、実態がはっきりしないので、講座の評価が妥当なものかどうか判断ができない。	●その他（本文修正） （取組・方向性②） (2) 定員（10組20名）を超える (4)（H29年:127講座 233回 9,689人）	(4)その他
3	上田委員	郵送	P.10	福祉学習の推進	取組・方向性③ 「トライやる・ウィーク推進事業」で、就業体験に行く生徒が目的をもって体験してもらうことが重要であると考え、事前学習として、事前に来店させるなどの機会を設けてはどうか。	●すでに取組済み （理由） 「トライやる・ウィーク推進事業」の前には、事前訪問を行い、事前学習としてあいさつなどの社会でのマナーについて学ぶほか、活動の目的について学んでいます。今後より充実した活動になるよう、地域に学ぶ取組を実施します。	(3)すでに取組済み
4	寺岡委員	郵送	P.11	地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援	取組・方向性① イベント情報が市のホームページ上でばらばらに発信されている状態で、ここにアクセスすれば情報が得られるという拠点づくりが大事。また、情報量が膨大であるため、RSSなどの情報が更新されるたびに通知がくる仕組みも活用すべき。	●委員意見欄に掲載します。 市報やHP等を通じて提供しているイベント情報の一元化とともに、効果的な情報発信についての検討や取組が必要。	(1)「委員の意見」欄掲載
5	土岐委員	当日	P.11	地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援	取組・方向性③ 「支え合いを育む人づくり支援事業」では具体的に、大学生はどのような活動をしているのか。また、この事業は経済的な支援だけなのか、具体的な活動のアドバイス等もするのか。	●その他（当日回答済） （今年度の活動について、一覧表を配布） 本事業は、高齢者の介護予防や子どもの居場所などでの子育て支援など、様々な取組を行っています。 この事業では、経済的な支援だけでなく、新たな市民活動団体を探している学校等には、市社協と連携しながら、活動先の紹介等の支援も実施しています。	(4)その他
6	綿瀬委員	当日	P.11	地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援	取組・方向性③ 地域で関わりが多いのは、小中学生と思うが、小中学生が地域の活動に参加できるように、何か取組等はしているのか。	●その他（当日回答済） 市社協のボランティアセンターでは、当事者団体が小中学校で、高齢者等疑似体験などの福祉学習の推進に取り組んでおります。また、「支え合いを育む人づくり支援事業」の高校生・大学生への支援をつくるにあたって、高校生が小学生向けの防災リーダーとして活動するなど、地域に活動の取組を還元しています。	(4)その他
7	寺岡委員	郵送	P.11	地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援	取組・方向性③ あまがさきチャレンジまちづくり事業は開始してからそれなりの年数が経過しており、「一定の効果」という言葉で表現できる時期はとうに過ぎている。これまでの成果を一度総括するなど必要ではないか。	●その他（本文修正） （取組・方向③） 「あまがさきチャレンジまちづくり事業」は、平成28年度に比べ申請件数が4件減少しているものの、新規申請団体9団体を含み、一定の効果はあげている。しかしながら、地域におけるコミュニティ活動の参加者の高齢化という課題もあるため、平成27年度より実施している高校生を対象とした「あまらぶジュニアコース」において、若い世代が地域活動に参加するきっかけとなる支援を実施している。	(4)その他
8	小川委員	郵送	P.11	地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援	取組・方向性④ 生活支援サポーター養成研修修了者数の内、何人がサポーターの任についたかの数値も記載してはどうか。	●その他（本文修正） （取組・方向④） (1)当初目標の300人を超える315人が研修を修了しており、20名程度が地域のボランティアとして活動した。また、3月以降に適宜、ハローワークの協力により面接会を実施する取組等を行い、20名程度が就労した。	(4)その他
9	山口委員	郵送	P.11	地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援	取組・方向性④ 生活支援サポーター養成研修修了者になにができるのかの説明が不十分と感じる研修修了者のフォローの結果が見たい（終了しただけで何もしていないのか、就業に役立ったのかなど）	●その他（本文修正） （取組・方向④） (1)当初目標の300人を超える315人が研修を修了しており、20名程度が地域のボランティアとして活動した。また、3月にハローワークの協力により実施した面接会では、20名程度が就労した。	(4)その他
10	寺岡委員	郵送	P.11	地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援	計画の評価③ さらなる支援が必要だという根拠が明確になっていない	●その他（本文修正） （計画の評価③） あまがさきチャレンジまちづくりに事業において、市民が主体的に取り組む活動を支援しているものの、活動経費が課題となり、参加できている学生等が一部に留まっている。若い世代の参加を推進するために、学生等の活動経費を含むさらなる支援が必要である。	(4)その他

	委員名	分類	該当箇所		委員意見等	修正内容等	区分
			頁	展開方向			
11	木下委員	当日	P.12	地域福祉活動を支援する人材の育成	取組・方向性④ 専門職同士の連携をする上で、何か具体的な支援（補助）等はあるのか。	●その他（当日回答済） 「支え合いの人づくり支援事業」では、新たな地域福祉活動の担い手を育むことを目的として、市が市民活動団体と協働し、福祉に関する講座等を行う場合にその費用の一部を助成しています。この事業を活用して、専門職同士の連携を進めてほしいと考えています。	(4)その他
12	木下委員	当日	P.12	地域福祉活動を支援する人材の育成	今後の取り組み④ P.11では、高校生、大学生の支援について具体的に記載しているが、P.12では、「取組について検討を行う」となっており、福祉学習の推進のために、何か具体的な取組はあるのか。	●その他（当日回答済） 今年度から、新たな担い手を育むことを目的として、「支え合いを育む人づくり支援事業」を実施しており、高校生、大学生への支援のほかにも、市が市民活動団体と協働して、福祉学習の場を広める取組を実施しています。	(4)その他
13	山口委員	当日	P.13	地域を支えるネットワークづくり	取組・方向性④ 地域福祉ネットワーク会議には、どんな方が参加しているのか。	●その他（当日回答済） 市社協と各地域包括支援センターが協力して、各地区に地域福祉ネットワーク会議が設置されている。メンバーについては、市社協や包括の職員だけでなく、連協会長、NPO法人や企業や病院など、地区ごとに様々なメンバーが参加しています。	(4)その他
14	前田委員	当日	P.13	地域を支えるネットワークづくり	取組・方向性④ 地域福祉会議と地域福祉ネットワーク会議の連携はどのようにされているのか。（概要版P10）地域福祉会議と地域福祉ネットワーク会議の連携の関連性、連携や進捗具合を知りたい。	●その他（当日回答済） 地域福祉会議で話し合われた地域課題について市社協の地域福祉活動専門員等が把握したものや、それ以外の地域の様々なところで話し合われた地域の声を拾い上げたものを、地域の団体や専門職が参画する地域福祉ネットワーク会議において話し合いを行っています。	(4)その他
15	上田委員	郵送	P.13	地域を支えるネットワークづくり	計画の評価③ 家計、子育て、病気など、困った事について、身近な人（近所、ママ友など）に知られたいと思いきなりSOSを出せない人もいます。知られる事で、心のストレスになる人もいるため、地域外の人に相談できる体制も必要である。	●すでに取組済み （理由） 尼崎市の南部・北部の保健福祉センターに、誰でも気軽に相談できる窓口として、「しごと・暮らしサポートセンター尼崎」を設置しています。誰にも相談出来ずに困っている市民の方に情報が届くよう、今後も窓口の周知・啓発を図ります。	(3)すでに取組済み
16	奥西委員	当日	P.14	地域での見守り・支え合いの充実	評価指標 4 地域福祉活動の参加者が感じている、他者への気遣いや共感、地域のつながり具合といったポジティブなものを指標として設定してもいいのではないか。	●既存の取組の中で検討等を行う。 地域福祉活動の参加者が感じている、他者への気遣いや共感、地域のつながり具合といったポジティブな指標の設定は、事業の効果測定において有効なものであるため、計画等の進捗管理の指標として検討を進めます。	(2)既存の取組の中で検討等を行う
17	山口委員	郵送	P.15	多様な手法による地域福祉活動の推進	評価指標 2 あまがさきチャレンジまちづくり事業については、申請から3年しか補助がなく、それ以降は自力で収入を得て、事業を継続されるようになっていく。しかしながら、福祉の事業から収益を得て事業を継続させるのは、通常の地域住民には困難であり、あまがさきチャレンジまちづくり事業の補助を、福祉の目的で使うには無理があると感じる。	●既存の取組の中で検討等を行う。 （理由） あまがさきチャレンジまちづくり事業は、「地域をよりよくするため市民自ら考え、力を合わせて実施する活動」を支援するもので、地域活動の広がりや、地域福祉活動の裾野を広げることにもつながるため、基本目標2-3「多様な手法による地域福祉活動の推進」の指標としています。今後も、あまがさきチャレンジまちづくり事業により始まった活動を含め、地域福祉活動の支援については尼崎市社会福祉協議会と連携して取組を進めます。	(2)既存の取組の中で検討等を行う
18	山崎委員	当日	P.15	多様な手法による地域福祉活動の推進	取組・方向性① 市民の地域福祉活動への参画を促すためにも、活動の内容や場所等の情報を、市全体で分かるような形で示してほしい。	●委員意見欄に掲載します。 市報やHP等を通じて提供しているイベント情報の一元化とともに、効果的な情報発信についての検討や取組が必要。	(1)「委員の意見」欄掲載
19	寺岡委員	郵送	P.15	多様な手法による地域福祉活動の推進	取組・方向性① 市のHP上でのイベント情報が一元化されていないため、情報収集のためのしきみ作りが大事である。また、情報量が膨大であるため、情報更新がなされるたびに通知が来る仕組みも活用すべきではないか。	●委員意見欄に掲載します。 地域福祉活動を支えるものの一つとして、困難事例の際に、権利擁護や包括的・総合的な相談支援体制があるといったことをPRすることが必要。	
20	奥西委員	当日	P.15	多様な手法による地域福祉活動の推進	取組・方向性③ 他人事を我が事に思い、住民主体で取り組む地域づくりや助け合い活動を支えるものの一つとして、難しい事例があった際に、権利擁護や包括的・総合的な相談支援体制があるといったことをPRすることも重要である。	●委員意見欄に掲載します。 市報やHP等を通じて提供しているイベント情報の一元化とともに、効果的な情報発信についての検討や取組が必要。	(1)「委員の意見」欄掲載
21	寺岡委員	郵送	P.16	社会福祉法人、企業、NPO等による地域貢献の推進	取組・方向性② 市のHP上で社会福祉法人やNPO等がそれぞれで発信されているイベントなどの情報を収集し、集約、発信する仕組みを検討してほしい。	●委員意見欄に掲載します。 市報やHP等を通じて提供しているイベント情報の一元化とともに、効果的な情報発信についての検討や取組が必要。	(1)「委員の意見」欄掲載
22	伊藤委員	当日	P.17	包括的・総合的な相談支援体制の充実	評価指標 1 「困り事があった時に、相談できる人はいない」と答えた市民の割合が減ったとあるが、高齢者、障害者、子育て世帯などをみたととき、それぞれの分野での分析はしているのか。	●その他（当日回答済） 市民アンケートのデータの世帯ごとの分析は行ってないため、データを確認後、分析可能な場合は分析を行います。	(4)その他
23	奥西委員	当日	P.17	包括的・総合的な相談支援体制の充実	取組・方向性①② 地域福祉ネットワーク会議と、既にある対象者別会議体との連携を図り、全体としての情報共有、相談体制を構築するとともに、地域からのニーズをどのように引き上げていくかが重要である。	●委員意見欄に掲載します。 地域福祉ネットワーク会議と、既存の対象者別会議体の連携を図り、全体としての情報共有、相談体制を構築するとともに、地域のニーズを把握、協議できる仕組みが必要。	(1)「委員の意見」欄掲載

	委員名	分類	該当箇所		委員意見等	修正内容等	区分
			頁	展開方向			
24	寺岡委員	郵送	P.17	包括的・総合的な相談支援体制の充実	取組・方向性② アウトリーチという言葉がわかりにくい。わかりやすい言葉を使うべきではないか。	●その他（本文修正） （取組・方向性②） 市民へのアウトリーチ（訪問支援等）	(4)その他
25	寺岡委員	郵送	P.17	包括的・総合的な相談支援体制の充実	取組・方向性④ ゴミ屋敷に関しては心理的な問題を抱えている方も多いと聞くので、カウンセリングを行うなど、十分な支援を望む。	●既存の取組の中で検討等を行う （理由） ゴミ屋敷等の課題を抱えた方の支援については、市社協や南北保健福祉センター等が個々の状況に応じて、当事者に寄り添い、関係機関と連携して支援に取り組んでいるところです。引き続き当事者の心理的支援等についても、留意しながら、取組を進めます。	(2)既存の取組の中で検討等を行う
26	寺岡委員	郵送	P.19	権利擁護の推進	取組・方向性⑥ 「職員対応要領」を作成しているにもかかわらず、障害者差別解消地域支援協議会では、職員による不適切な対応事例の報告が後を絶たない。職員研修のあり方に問題があるのではないか。	●既存の取組の中で検討等を行う。 （理由） 障害者差別解消に向けた職員研修については、引き続き、「職員対応要領」に基づき取組を進めるとともに、必要に応じて研修内容の見直しを行います。	(2)既存の取組の中で検討等を行う
27	前田委員	郵送	P.21	要配慮者（災害時要援護者）支援の推進	計画の評価3・4 各地区で、いつまでにいくつの避難所が必要で、現時点でどこまで進捗し、進捗しない阻害要因を加筆してほしい。	●その他（本文修正） （取組・方向性④） ①福祉避難所の拡充に向け特別養護老人ホームとの協議を進め、新たに2施設と協定を締結し平成29年度末で福祉避難所指定数が22箇所となった。また、社会福祉施設のほか、教育機関等も含めた様々な機関との協議を進めた。 （計画の評価3・4） ①②名簿を受領した地域では、隣近所の顔の見える関係づくりに向けた声かけや、避難訓練が始められるなど、地域における避難行動要支援者の避難支援が進んでいる。一方で、名簿を受領する地域団体を増やす上で、担い手の高齢化等による地域の負担感が課題となっている。また、名簿を受領した地域において、名簿を活用した避難訓練の充実などについて検討を進めていく必要がある。 ③④社会福祉施設と協議を進めたことで、少しずつではあるが、福祉避難所の指定数は増加しているものの、市内には、人員、設備面が整い福祉避難所指定の理解が得られやすい入所施設が少ないことが課題となっている。また、福祉避難所指定施設においても、福祉避難所を開設・運営マニュアルの整備が課題となっている。	(4)その他
28	前田委員	郵送	P.21	要配慮者（災害時要援護者）支援の推進	評価指標2、計画の評価3・4 各地区での福祉避難所数、災害時避難行動要支援者名簿提供数や備蓄の進捗等を記載してほしい。	●既存の取組の中で検討等を行う （理由） 福祉避難所数や避難行動要支援者名簿提供数については、現時点では目標値を定めておりませんが、委員意見を踏まえ目標値の設定について検討します。 ●その他 （理由） 備蓄については地域防災計画の協議事項となっております。	(2)既存の取組の中で検討等を行う (4)その他
29	伊藤委員	当日	P.22	安全・安心に暮らせる環境整備	計画の評価① 未成年への消費者教育や意識啓発と併せて、法律相談の充実などの弁護士と連携したネットワークの構築も重要と考える。	●委員意見欄に掲載します。 未成年に対する消費者教育や意識啓発とともに、法律相談の充実など弁護士と連携したネットワークの構築が必要。	(1)「委員の意見」欄掲載
30	寺岡委員	当日		全体	全体的に根拠がわかりづらい文章が多く、なにをもって取組が進んだのかがわかりづらい。	●その他 （理由） 今回が初めての点検・評価であり、今後記載内容等について工夫します。	(4)その他
31					進捗報告について、マンパワー以外、件数の報告だけで、いつまでに、どの程度設置するなどの暫定目標値も示さないままの報告になっている。現時点で、どの程度（割合）進捗しているのかを示してほしい。	●既存の取組の中で検討等を行う （理由） 各事業において目標数値を設定していないものもあるため、次年度の評価において、事前に関係課と調整を行い可能な範囲で目標値を設定します。	(2)既存の取組の中で検討等を行う
32	前田委員	郵送		全体	マイナス評価から課題を抽出して検討していくという上で、『できていないこと』をメインに記録し、仮説でも良いのでその背景因子を明示してほしい。	●その他（本文修正） 課題を認識している事業について、それがわかるような表現等に変更し、本文の修正を行います。 （修正箇所） ・P10 計画の評価①、③④ ・P11 計画の評価②、③ ・P12 計画の評価④ ・P13 計画の評価①②、④ ・P15 計画の評価②③、⑥ ・P18 計画の評価②③⑨	(4)その他
33					各項目の実施状況の説明に終始してセクショナリズムを感じる。折角、全方位的な司令塔的な計画なのに、クロス的な思考、各項目の最大公約数的な共通事項、最小公倍数的な課題やビジョンが全くない。特に、マイナス評価から捻出されるビジョンがないこと致命的です。キャッチコピーの再掲でも良いので期間限定の方向性を示してほしい。	●既存の取組の中で検討等を行う （理由） 地域福祉計画のPDCAを進める中で、委員意見についても今後検討していきます。	(2)既存の取組の中で検討等を行う
34					実績について、自然発展的なもの、社会福祉協議会等機関が介したものの、尼崎市からの直接支援のもの等の整理が出来ていません。特に、以前から地域住民の独自活動も含められる傾向があったことから、公的支援、介入の詳細を次回から整理してほしい。	●その他 （理由） 市が地域団体に対して様々な助成制度を実施しているとともに、あわせて市社会福祉協議会が独自又は市の委託や補助により支援を行っていることから、全ての影響や効果を整理することは困難と考えますが、次年度の評価においては、可能な限り整理して記載するように努めます。	(4)その他